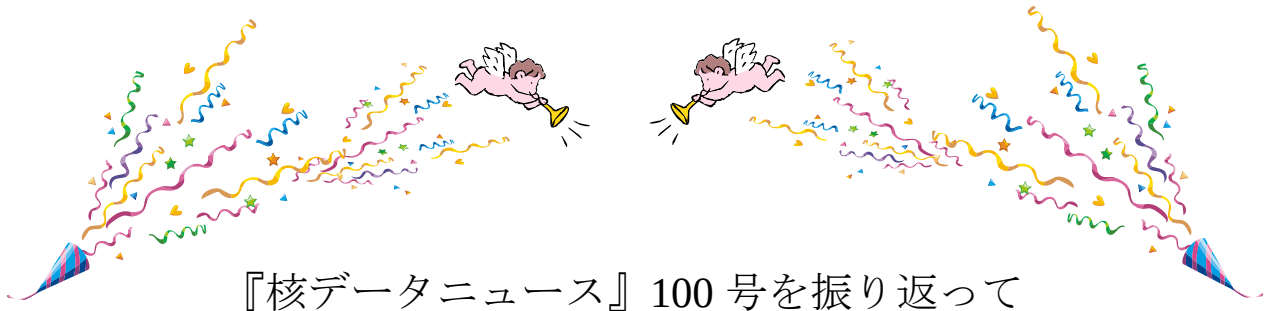




『核データニュース』100号を振り返って

元日本原子力研究開発機構

中川 庸雄

nakagawa_tsuneo@ybb.ne.jp

本号の発行をもって『核データニュース』誌が100号になった。本誌は、1966年に創刊された『JNDC ニュース』を改題して、1976年5月から発行してきたものである。35年もの長い年月をかけて、100号に到達したことになる。『JNDC ニュース』の時代を入れれば、45年の時が流れ、通巻で136号となった。長い間本誌に関わってきたものとして、たいへんうれしく思っている。同時に、記事を執筆していただいた多くの方々に、改めて感謝したい。

『JNDC ニュース』創刊号によると、シグマ委員会（日本原子力学会のシグマ特別専門委員会と旧日本原子力研究所のシグマ研究委員会）が発足したのが1963年。「原子力開発に必要な核データの収集・整理と測定に関する情報の交換や問題の討議をし、かつ可能な範囲で実行に移す」ことが委員会の目的であった。これ以降、核データに関する海外の情報がシグマ委員会を窓口として入ってくるようになった。これらの情報を国内の研究者に知らせて、少しでも役立つようにするため、1966年に『JNDC ニュース』の発行が始まったのである。JNDCはシグマ委員会の英語名「Japanese Nuclear Data Committee」を意味することは言うまでもない。これを1976年に『核データニュース』と改名したのだが、この誌名は、より親しみやすく、分かりやすいものをということで、アンケートをとった結果、決められたものである。



写真1 祝、核データニュース創刊 100 号

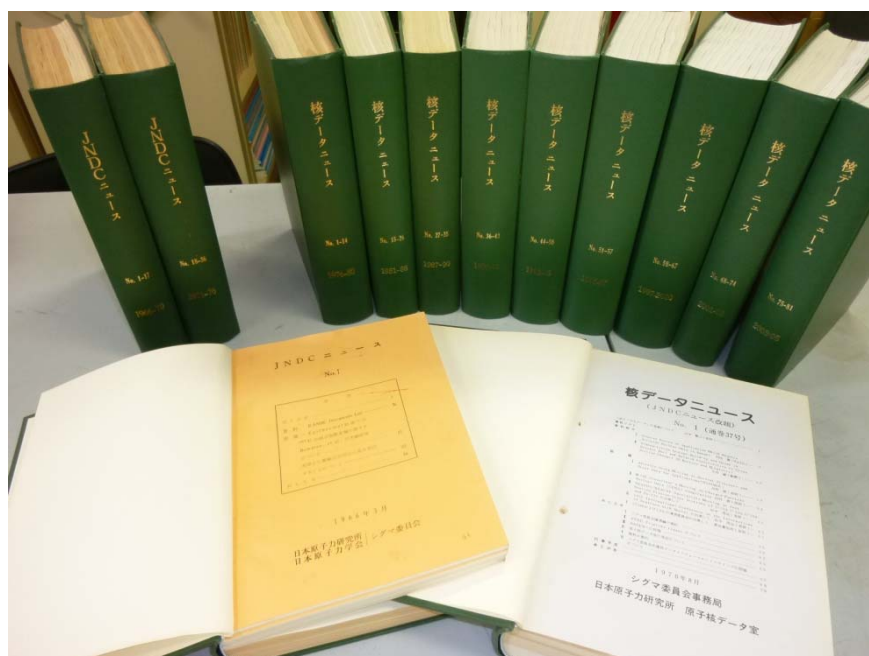


写真2 1966 年 JNDC ニュース創刊、1976 年 核データニュース創刊

筆者は、22号（1985年5月発行）の編集から本誌の作成に参加させていただいた。それまでは浅見哲夫氏がほとんどお一人で編集作業を担当されていたのだが、「核データニュース検討小委員会」による検討の結果、編集委員会を編成して定期的に年3回発行する事になったのである。編集委員会ができたことで、掲載する記事を広く集めることができるようになり、本誌の内容が充実し、定期的な発行も可能になった。

例えばそれから四半世紀になる。改めて22号を見ると、話題としてJENDLや断面積測定、評価済核構造データファイル（ENSDF）、JNDC核分裂生成物崩壊データファイルなどの記事が載っている。なつかしい内容である。この時のJENDLはJENDL-2であったが、その後JENDLは版を重ね、2010年に公開された最新版のJENDL-4.0は、世界最大規模にして最良の評価済核データファイルとなった。本誌は、折にふれJENDLの成長を伝えてきた。22号には、その他にシグマ委員会活動の紹介、海外から入手した資料のリスト、今後の会合の予定などが掲載されている。これらの記事は23号以降の本誌で毎号取り上げられてきた。

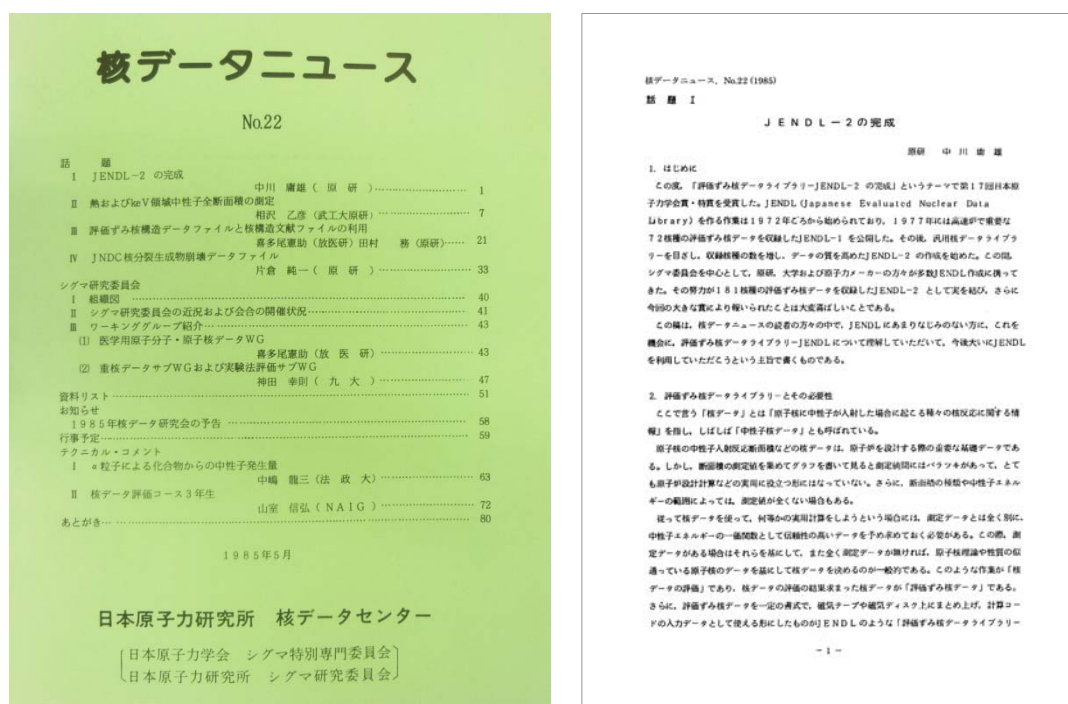


写真3 核データニュース No.22（1985年5月）、及び第1頁

本誌の発行形態は、長い間に大きく変わった。当初は冊子体のみでの発行であったが、71号（2001年11月）からはインターネット上でも発行を始めた。83号（2006年2月）以降はインターネットのみでの発行となり、今では『JNDC ニュース』も含めて1号から最新号までの全ての記事がインターネットで読めるようになっている。冊子体の本誌が無くなって寂しく思ったものだが、やむを得ない。印刷の手間が無くなったので速やか

に発行できるという利点もある。各記事へのアクセス数の統計もとれる。JNDCmail や核データ部会のメーリングリストでニュース発行の連絡をした後、急激に増えるアクセスの様子を、サーバーのログファイルを見て確認するのが、私の秘かな楽しみであった。情報検索ロボットによるアクセスを含めてではあるが、『核データニュース』全記事へのアクセス数は、2011 年 7 月だけで、26,000 回を超えている。情報検索ロボットによるアクセス数を除くのは難しいが、試算によると 6,300 件くらいがロボット以外からのアクセスだという（行川正和氏私信）。



写真 4 核データ評価研究 Gr の書庫に保管されている核データニュース

発行母体も変化している。95 号（2010 年 2 月）まではシグマ特別専門委員会と日本原子力研究開発機構のシグマ委員会（旧シグマ研究委員会）であったが、96 号（2010 年 6 月）からはシグマ特別専門委員会と原子力学会の核データ部会が発行することになり、核データニュース編集委員会は、シグマ委員会を出て核データ部会の傘下に入った。新体制下の編集委員会も、引き続き年 3 回のペースで『核データニュース』の発行を続け、今回ついに 100 号（通巻 136 号）に達することができた。

本誌は、日本で核データ研究が始まったところから核データと共に歩み、それを記録してきたと言ってよい。特に JENDL をはじめとする評価済核データファイルについては、そうである。今後も、国内における核データ研究活動を記録して、末永く発行を続けていけることを願っている。

（2011 年 10 月 4 日 記）

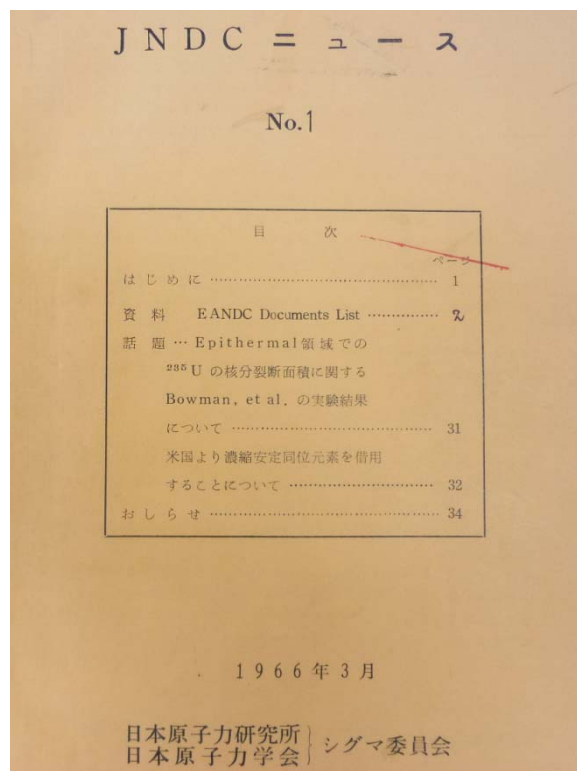


写真5 1966年 JNDC ニュース創刊号表紙

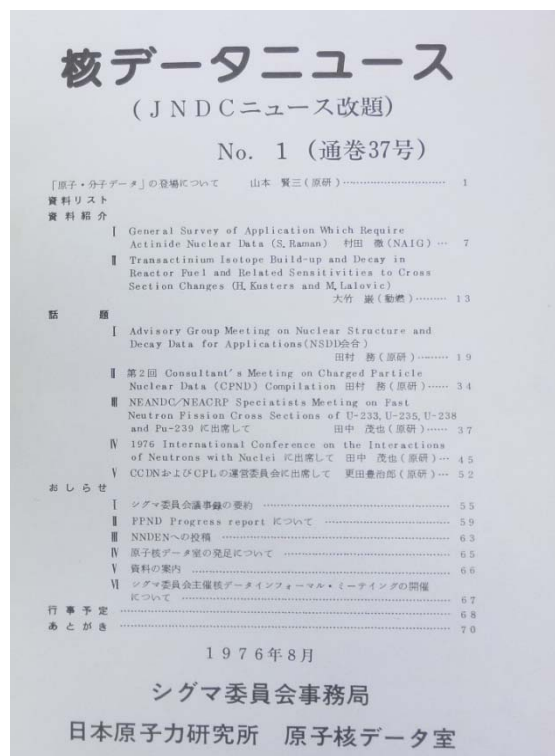


写真6 1976年 核データニュース創刊号表紙